

通信教育課程第 26 回後期大学院学位記 第 70 回後期卒業証書ならびに
通学課程大学院学位記、第 74 回後期卒業証書授与式
学長告示

秋の澄んだ空気の中に実りの季節を感じます本日、関係各位のご臨席のもと、令和 8 年度佛教大学通信教育課程 第 26 回 後期大学院学位記、第 70 回後期卒業証書授与式、ならびに通学課程 大学院学位授与式、第 74 回 後期卒業証書授与式を挙行できますことを、大変うれしく思います。

学位記・卒業証書を手にされる皆さん、誠におめでとうございます。

本日ここに、通信教育課程、通学課程それぞれの学びを修め、この晴れの日を迎えられた皆さん一人ひとりに、心からお祝いを申し上げます。また、これまで皆さんの学びを支え、励まし、見守り続けてこられたご家族、ご友人、職場の方々、そして本学の教職員に、佛教大学を代表して、深く感謝申し上げます。

通信教育課程で学ぶということは、決して平坦な道ではありません。

仕事を終えた後の夜、家事や育児の合間のわずかな時間、あるいは通勤電車の中で、皆さんはテキストを開き、レポートに向き合い続けてこられました。思うように学習が進まない時期もあったでしょう。予定していた計画が崩れ、投げ出したくなる瞬間もあったかもしれません。それでも皆さんは、学びを止められませんでした。

一方、通学課程の皆さんは、キャンパスでともに学ぶ仲間や先生方との日々の対話の中で、知を深め、人間性を養ってこられました。講義室での議論、ゼミでの発表、友との語らい、そのひとつひとつの積み重ねが、皆さんを大きく成長させてきたことと思います。

歩んでこられた道はそれぞれに異なりますが、そのひとつひとつの積み重ねが、今日という日を形づくっています。私は、皆さんのその歩みに、心からの敬意を表します。

佛教大学の教育は、知識を蓄えることだけを目的としてはおりません。

私たちが大切にしてきたのは、他者の声に静かに耳を澄まし、自らを省み、社会と誠実に向き合う姿勢です。答えを急がず、容易に結論を出さず、問いとともに生きること。この姿勢こそが、仏教精神に根ざした本学の学びの核心であります。

さて、修了・卒業にあたり、皆さんに一つの言葉を贈りたいと思います。

お釈迦さまが入滅を前に弟子たちに残された教えに、「自灯明・法灯明（じとうみょう・ほうとうみょう）」という言葉があります。自らを灯（あかり）とし、自らをよりどころとせよ。そして法（真理）を灯（あかり）とし、法を

よりどころとせよ、という意味であります。

通信教育課程で学ばれた皆さんは、教室で誰かと時間を共有するのではなく、自らの意志で学びを選び、自らの力で問いに向き合い、自らの歩みとして知を積み上げてこられました。誰かに答えを与えられるのを待つのではなく、自分自身の内に灯をともし、その光を頼りに歩みを進めてこられたのです。

通学課程で学ばれた皆さんもまた、友や先生方との対話を重ねながら、最後に自らの考えとして受けとめ、自らの内に一つの灯をともしてこられたことと思います。学びの形は違っても、行き着く先にあるのは、自らを灯とし、自らをよりどころとして歩む力にほかなりません。

これから皆さんが進む社会は、あらかじめ正解が用意された世界ではありません。変化は速く、先行きは見通しにくく、ときに理不尽な現実と直面することもあるでしょう。

しかし皆さんはすでに、自らの内に灯をともし、それを頼りに歩む力を身につけました。忙しさの中でも、迷いの中でも、学びを止めなかった経験は、これからの人生を照らす確かな灯火となるはずです。

修了・卒業は、学びの終わりではありません。学びは、人生を通してなお続いていくものであります。

佛教大学は、これからも皆さんの学びの原点であり、いつでも立ち返ることのできる場所であり続けます。

どうか、自らのうちに灯した光を信じ、その光を、自分のためだけでなく、周囲の人々のために、社会のために、静かに役立てていってください。

修了生・卒業生の皆さんの前途に、限りない可能性と幸多からんことを心より祈念し、私の告辞といたします。

本日は、誠におめでとうございます。

令和8年9月27日 佛教大学長 佐藤 和順